



学校長あいさつ

学校長 西 永 浩 士

本校は、沖縄県本島北部の最初の養護学校として、昭和51年4月20日に名護市宇茂佐の地に開校し、創立42周年を迎えています。開校当初は、本島北部12市町村に居住する知的に障害のある児童生徒を対象とし、小学部と中学部2学部だけの設置となっていました。昭和54年養護学校義務制実施の年度に高等部さらに翌年度には幼稚部が設置され、幼・小・中・高の一貫した教育を行う学校として整備されました。平成22年度には、知的障害だけではなく肢体不自由の幼児児童生徒も本校教育の対象となりました。さらに、平成28年度からは、視・聴・知・肢・病の5障害種を対象とした総合型の特別支援学校となっています。本校校舎は、木々の緑と閑静な住宅に囲まれた場所にあり、校舎内には爽やかな風が吹き抜け年間を通して南国の花々が咲き誇っています。耳を澄ませば野鳥のさえずりも聞こえてきます。また、遠くには本島で標高第3位の嘉津宇岳を望むことができます。平成16年度には現在の新校舎が完成し、教育環境も益々充実してきています。

今年度は、幼稚部5名、小学部32名、中学部23名、高等部72名の132名の幼児児童生徒が在籍し、一人一人の障害の状態や発達段階に応じた教育課程の編成を行い、きめ細かな指導を行うことを全教職員で共通理解し実践しているところです。

本校教育は「なかよく げんきに ほがらかに」を合い言葉として幼児児童生徒の生きる力の育成に取り組んでいます。「なかよく」はより良く人との関係が築けること。「げんきに」は心身ともに健康な体をつくること。「ほがらかに」には、常に気持ちを穏やかにし情緒の安定が保てること。と捉えて子どもたちの成長を支援しています。その成長が幼児児童生徒の現在、将来の豊かな生活に繋がっていくと考えています。

本校PTAは、その活動が認められ平成22年度に文部科学大臣賞を受賞しています。受賞理由としては、「性に関する指導や進路指導」を学校と一緒に取り組んだことやバザー等の収益金でテント一式、大太鼓等を寄贈したことが評価されました。そして、平成25年度には、生徒・職員・保護者が一丸となって取り組んだ緑化活動が評価され、沖縄県主催の緑化コンクールで特選を受賞しています。今後も幼児児童生徒の活動を中心に据え、様々な取り組みを職員、保護者が一体となって進めていきたいと考えています。

今年度本校は、沖縄県特別支援学校体育連盟事務局校として、「特別支援学校体育大会」及び「駅伝大会」を開催致します。さらに、沖縄県特別支援学校進路指導研究会事務局校として、名護市民会館を会場として「キャリア教育・就労支援発表会」を開催致します。名護特支本来のチームワークを発揮し、全教職員並びにPTAが協働体制で望む所存です。

障害のある幼児児童生徒のより良い成長、発達のためには、それぞれの学校だけではなく多くの機関、人材の協力、支援が欠かせません。そのため本校は、北部地区における特別支援教育のセンター的機能を発揮し、関係機関や地域との連携に取り組んでいきます。多くのみな様が、このHPを通して幼児児童生徒の学習や教育活動をご覧になり、本校並びに地域の特別支援教育について益々ご理解いただくことをお願い申し上げます。